

はじめに

「何に対しても関心がなく、生きる意味や楽しさがわからなくなった。人を信用できず、自分は価値のない人間と自暴自棄になっていた。当事者会へ参加することで自分だけじゃないと安心感を持てた。温かい気持ちで見守ってほしい。」

「劣等感の塊のような姿勢と表情。その姿を見るのはとても辛いことです。自信のなさが姿に現れ、親はそれを叱咤激励し悪循環を繰り返していたのが我が家です。まずは『笑顔を見る』ことを目標にしています。」

私は、平成 19 年 4 月よりご縁があり県央保健所のひきこもり当事者支援事業に携わっていますが、上記は当該事業で出会いましたあるご本人及びご家族の貴重なご意見です。

「ひきこもり」は誰にでも起こり、適切な支援が得られないと長期化・高齢化する可能性があります。しかし、その実態は多くの人には見えていません。「ひきこもり」は、対人関係の不安や自分に自信が持てないことなどを背景に、社会に一步を踏み出せないでいる状態のことで、「怠け」や「反抗」などとは異なりますし、病気でひきこもらざるを得ないこともあります。「ひきこもり」という状況で生じるしんどい思いは、ご本人一人だけでなくご家族や周りの人たちもまきこみます。そして、心配し、励ましているつもりが、余計に事態をこじらせてしまうというコミュニケーションの悪循環もしばしば生じてしまいます。そのような状況の改善のためには、やり場のない怒りや悲しみなどの気持ちを安心して話せる、また自分たちの経験や思いを共有でき、孤立感を和らげられるような人や場所を見つけることがとても大切だと考えています。弱い自分、情けない自分、みっともない自分なども素直に表現でき、みんながそれをありのままに受け入れられるような居場所作りが必要です。

さて、長崎県が平成 22 年に行った調査結果によると、広義のひきこもり者の割合は 1.4% で約 5800 人と推計されています。長崎県ではさまざまなひきこもり施策が進められています。平成 26 年度に長崎県ひきこもり支援連絡協議会は調査専門部会を設置し、ひきこもり当事者・家族への支援体制整備のための実態調査を平成 26 及び 27 年度に実施しました。本調査結果を踏まえて、県民や関係機関等が一体となって自立を支援していけるような連携体制を整備するとともに支援の質の向上を継続的に行い、当事者の皆様が社会参加しやすい地域づくりを目指していきます。このたび実態調査のまとめと今後のひきこもり施策の方向性を示すことを目的に本報告書を作成しました。今後、長崎県のひきこもり施策を進める上での指針として活用されることを期待します。

最後に、調査にあたりご協力をいただきました県民の皆様へ深く感謝いたします。

平成 28 年 5 月 6 日

長崎県ひきこもり支援連絡協議会調査専門部会長

長崎大学医学部保健学科

田中悟郎

本編

1 ひきこもりに関する基本認識

ひきこもりについては、多様な状態像であるため、基礎情報として「ひきこもりの基礎知識」「支援内容についての基礎知識」は資料編にまとめて掲載した。ここではひきこもりの定義の一例を示す。

(1) ひきこもりとは

ひきこもりの定義の一例を示すと下記のとおりである。ひきこもりとは、病名や診断名でなく、一つの状態像を示す言葉である。

様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指す現象概念。

『ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン』（厚生労働省，2010）

ひきこもりといっても、外出を全くしない方もいれば、夜はコンビニなどで買物をする人もいる。全国には後で触れる「狭義のひきこもり」の人と「準ひきこもり」の人と合わせ、約70万人いると考えられている。

このように、全国に多くのひきこもりの人がいるが、社会参加をしていない子どもや成人がすべて社会的支援や治療を必要としているわけではない。例えば慢性身体疾患の療養のため家庭に長くとどまる必要のある事例や、社会参加をしない生き方を家族が受容し社会的支援を必要としない場合、少なくとも当面は支援を必要とするひきこもり状態とはならない。

一般的に支援を必要とするひきこもり事例の中心は、社会参加の回避が長期化し、社会生活の再開が著しく困難になってしまったために、当事者や家族が大きな不安を抱えるようになった事例である。（厚生労働省，2010）

2 長崎県内のひきこもり者の実態に関する数値

県内の平成27年10月1日時点の推計人口から算出されるひきこもり者は下記のとおりである。この数値に関してはより信頼性が高いと考えられる対面調査を行った内閣府の調査結果の数値にしたがって算出しており、広義のひきこもり者は県内に5,818人いることが推計される。

図表2-1

	内閣府による定義		内閣府調査	県内推計値
			率(%)	(人)
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	準ひきこもり	広義のひきこもり	1.19	3846
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける			0.40	1293
自室からは出るが、家からは出ない	狭義のひきこもり		0.09	291
自室からほとんど出ない			0.12	388
			1.79	5818

内閣府調査：平成22年7月 若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）

県内推計値は平成27年10月1日時点の県内の15歳～39歳の人口（323,233人）に内閣府の率を掛けたもの。

この報告書の4 ひきこもり支援に関する社会資源調査 で報告するとおり、公的な相談機関が受けた相談のなかで40代以上のひきこもりも相当数把握されている。

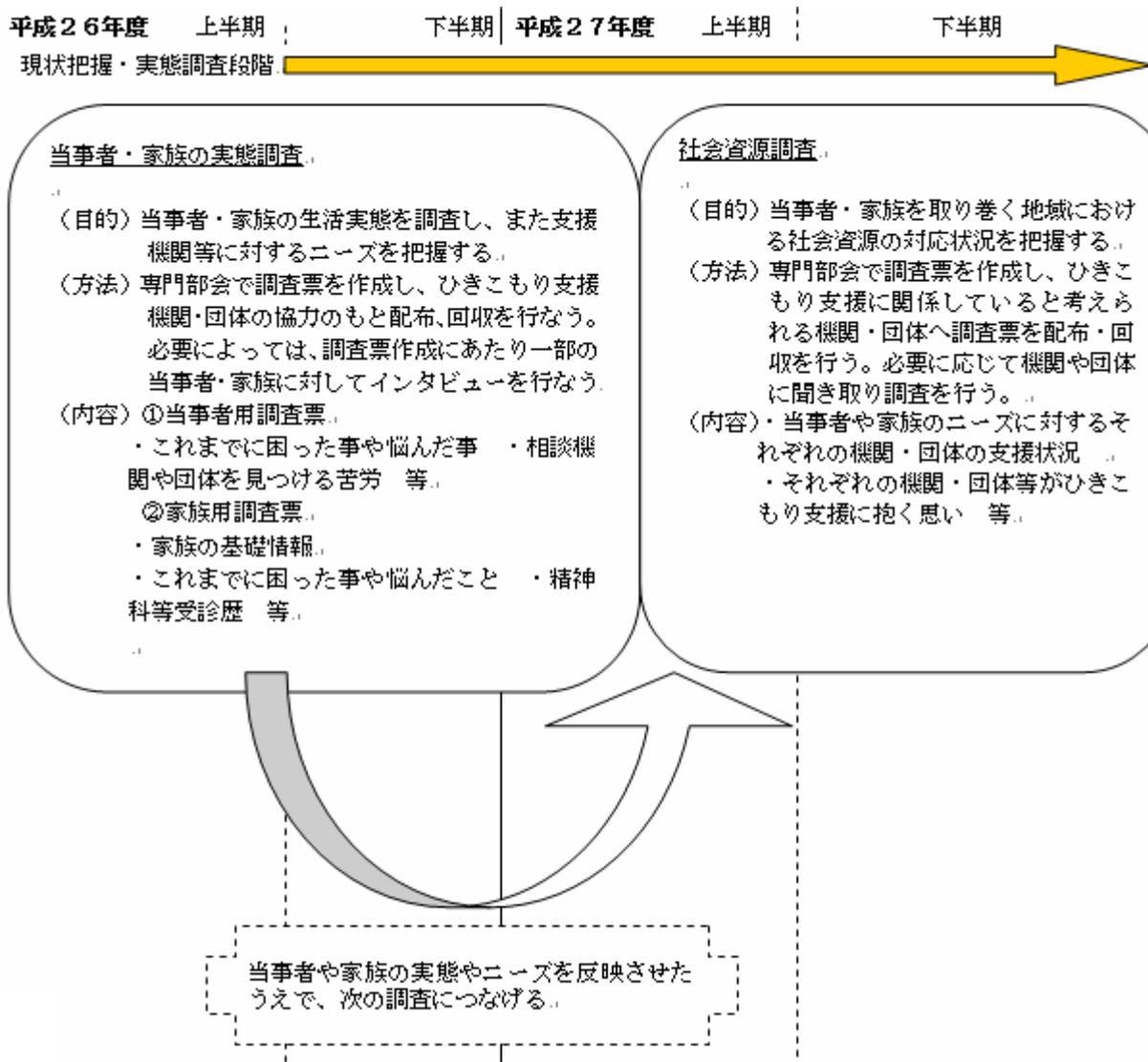
内閣府の調査は15歳～39歳を対象にした調査であり、40代以上のひきこもりが実際にどの程度いるかという実態を明らかにしてはいない。したがって40代以上のひきこもりについて県内の推計は現時点でできないが、ひきこもりの高齢化が進んでいることから、実際のひきこもりの数は多いことが推測される。

3 ひきこもりに関する実態調査について

(1)「ひきこもりに関する実態調査」について

県内には図表2-1のとおり一定のひきこもり者がいることが推測された。しかし、これまでにひきこもりの当事者やその家族の生活実態、現状への思い、ニーズ、また、そのひきこもりの当事者や家族に対して支援を行なっている機関や団体の現状等について把握がなされていなかった。

そこで、県ひきこもり支援連絡協議会では、平成26年度から2か年計画で「ひきこもりに関する実態調査」を行うこととした。この調査は2段階の調査とし、まず第1段階として、ひきこもりの当事者及びその家族に対する調査を行い、ひきこもり者の生活実態やニーズを把握する。そこで得られた情報を反映させ、第2段階の地域の社会資源に対する調査を行い、ひきこもり支援に関係すると思われる機関や団体の支援状況等について把握することとした。



(2) ひきこもり当事者・家族の実態調査の概要

【目的】

当事者・家族の生活実態や現状に対する思いを調査し、また支援機関等に対するニーズ等を把握することで、当事者・家族を必要な支援体制整備に結びつけるための基礎情報を得る。

【経過】

県ひきこもり支援連絡協議会で「ひきこもりに関する実態調査」を2か年計画で行うこととし、「ひきこもり調査専門部会」が設けられ調査票の作成や調査実施の手続きの検討を重ねた。(平成26年度内に専門部会を3回実施)

以下、「ひきこもり当事者・家族の実態調査」を「当事者・家族調査」と略して称する。

【調査内容】

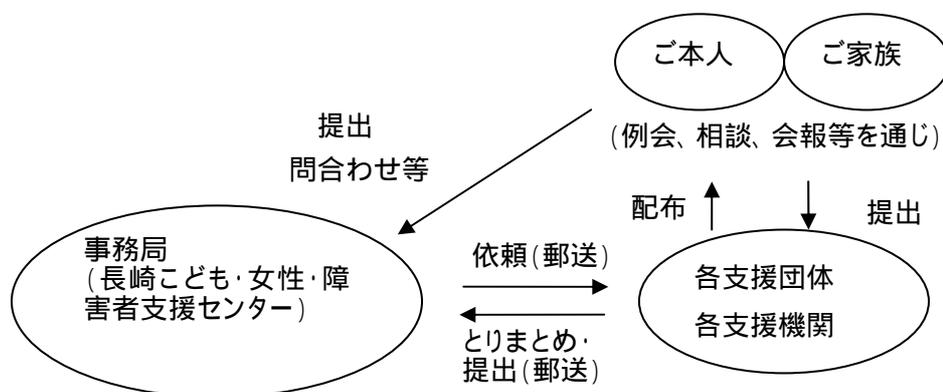
ひきこもりの当事者の状態が分かるよう、当事者には自らの現状等について回答を求め(「ご本人用調査票」)、家族に対しては、当事者の現状、また家族自身の経験や思い等についての回答を求めた(「ご家族用調査票」)。両調査票については、当事者とその家族の現状等に対する捉え方の違いもみることができるよう、質問項目をできる限り同じものにしていく。

(調査票)

大項目	小項目	調査票のページ	
		ご家族用	ご本人用
1 現在の状況に関する質問	すまい、年齢 日常生活 困っていること、現状への思い 不登校や仕事のこと こころの健康状態	P 3 ~ P 9	P 2 ~ P 6
2 支援機関・団体に求めること	以下の相談機関等について、利用状況、利用機関名、利用にあたり重視する点、利用してみたの評価 A 教育に関する支援 B 就労に関する支援 C 精神科等医療機関 D 当事者会等 E 家族会等 F 相談機関(家族の利用) G 相談機関(当事者の利用)	P 10 ~ P 13	P 7 ~ P 9
3 外出状況と相談機関等利用状況	・外出状況、外出先(現在) ・ひきこもり状況(過去~現在) ・もっともひきこもっていた当時の相談等利用状況 ・その当時「誰に」「どのような方法で」接して欲しかったか	P 14 ~ P 17	P 10 ~ P 13

【調査における留意点】

調査専門部会では、ひきこもりの当事者や家族に直接その実態を尋ねていくには、現在、団体や機関から支援を受けている当事者や家族対象に尋ねる方法が適当だとの意見があり、下記の図のような配布方法が検討されたが、以下の ア、イの点で留意が必要とされた。



ア 配布・回収時の留意事項

当事者が今まさにひきこもり状態にあるときに、一律に調査の協力を依頼すると、当事者と家族の間の葛藤を強め関係を悪化させる恐れがある。

今まさにひきこもりに悩んでいる状態の当事者や家族でなく、「回復過程」にある当事者やその家族を対象にする。

機関や団体においては、例会や相談等の利用者で、「回復過程」にあるか否かの状態が確認できる当事者や家族を対象とする。

イ 「ひきこもり」の表記についての留意事項

調査協力を依頼する機関や団体はひきこもりの人「だけ」を支援しているのではなく、ニートや発達障害等の他の問題を抱える人の支援も行っている機関や団体である。できる限り「ひきこもり」の人に配布してもらうようにするが、必ずしも「ひきこもり」の方だけに、調査票が届くわけではない。

また「ひきこもり」の表記が、当事者や家族を傷つける場合がある。「自分はひきこもりだと思っていない」当事者やその家族は、調査票を渡されることにより、傷つく可能性があること。

調査名を「若者の自立に関する実態調査」とし、「ひきこもり」の表記は2か所のみとなるようにした。

【調査の概略】

調査票の種類・名称		「若者の自立に関する実態調査（ご本人用）」 「若者の自立に関する実態調査（ご家族用）」
対象者		ひきこもり者や家族に対し支援を行っていると思われる機関や団体（下図表）から支援を受けている当事者及び家族
記入方法		当事者および家族による自記式
調査方法	実施の手続き	ひきこもりに関する支援団体・機関（下表のとおり）による支援を受けている当事者および家族
	開始月	平成27年1月
	終了月	平成27年3月
回収数	当事者	39
	家族	76
	計	115

図表 調査に協力いただいた団体や機関

支援団体

団体名	団体名
親の会たんぽぽ	ゆるゆるどころアーバ
フリースペース長崎青年の居場所「リボン」	風の舎
NPO法人 フリースクールクレイン・ハーバー	家族会『花たば』
ドリームカムホーム	フリースクールはやさき
NPO法人 心澄	登校拒否を考える島原親の会
一般社団法人若者自立支援長崎ネットワーク	フリースペースひまわり
NPO法人フリースペースふきのとう	フリースペースつくしんぼ
不登校・ひきこもり支援団体「のんさん」	五島若者サポートステーション
ワワワの親の会	NPO法人せかい卵
中里・皆瀬地区親の会	上五島親の会 こもれび
若者サポートステーション佐世保	はあと・プレイス
親の会こもれび	フリースペースみちしるべ
ハートフリー	

県・市機関

長崎市保健所	県子ども・若者総合相談センター「ゆめおす」
佐世保市保健所（障がい福祉課）	長崎子ども・女性・障害者支援センター
県立8保健所	

(3) ひきこもり当事者・家族の実態調査結果の要約

ア ひきこもり状態について

「ひきこもっていた(いる)ことがあるか？」を「はい」「いいえ」で自記式とすることには、それぞれの回答者の「ひきこもり」についての理解に幅があり、ひきこもりの定義に近い妥当な回答が得られない恐れがあったため、「2 長崎県内のひきこもり者の実態に関する数値」でも引用した内閣府「若者の意識に関する調査」を参考に下記のような問3-3を設け、回答を求めている。

問3-3 あなた(家族調査においてはご本人)の過去及び現在の外出の程度で以下の～のいずれかにあてはまる期間がありますか

仕事や学校で平日は毎日外出する
仕事や学校で週に3～4日外出する
遊ぶためなどの目的で人と頻繁に外出する
人づきあいのためにときどき外出する

ふだんは家にいるが、支援団体・機関や病院に行くときのみ外出する
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のために外出する(*)
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどにはでかける(*)
自室からは出るが、家からはでない
自室からはほとんど出ない

*...家族以外の人との交流が欠かせない外出は～です

問3-3 の回答状況

		家族		本人	
		人数	割合	人数	割合
1	ある	58	76.3%	26	66.7%
2	ない	6	7.9%	10	25.6%
	未回答	12	15.8%	3	7.7%

問3-3で「ある」と回答した割合は7割前後と、もともと意図していたとおりの100%近くには至らなかった。それにはひきこもりの状態を確認して個別に直接調査票を配ることができないという調査の方法論的限界もあったが、以下のようなことも考えられた。

- ・ はじめてひきこもりにアプローチしようとするときに、ひきこもりを中心として、その周辺の高校中退者、不登校やニート等を含めた層に向けてしか接触を図ることができない。ひきこもりだけに向けて接触をはかる手段は現実的に考えにくい。
- ・ ひきこもりとその周辺の人たちが重なり合うことを予め想定しながら、アプローチをはかる必要がある。
- ・ 重要なことは、ひきこもりを中心として、その周辺の高校中退者、不登校やニート等を含めた層に、この調査で判明した以下のような困難を抱える人がいる事実がある。

イ 記入者の年齢、性別、関係等

問 1-1 どなたが、お答えになっていますか（ご本人から見た関係）

		家族		本人	
1	父	7	9.2%	0	0.0%
2	母	64	84.2%	0	0.0%
3	兄	0	0.0%	0	0.0%
4	弟	0	0.0%	0	0.0%
5	姉	2	2.6%	0	0.0%
6	妹	0	0.0%	0	0.0%
7	祖父	0	0.0%	0	0.0%
8	祖母	0	0.0%	0	0.0%
9	その他	3	4.0%	0	0.0%
10	ご本人	0	0.0%	39	100.0%
	未回答	0	0.0%	0	0.0%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 1-2 あなたの住んでいる市町は（本人用設問 問 1-1）

		家族		本人	
1	長崎市	39	51.3%	17	43.6%
2	佐世保市	7	9.2%	2	5.1%
3	島原市	0	0.0%	0	0.0%
4	諫早市	14	18.4%	10	25.6%
5	大村市	1	1.3%	0	0.0%
6	平戸市	1	1.3%	0	0.0%
7	松浦市	0	0.0%	0	0.0%
8	対馬市	4	5.3%	5	12.8%
9	壱岐市	2	2.6%	0	0.0%
10	五島市	0	0.0%	0	0.0%
11	西海市	0	0.0%	0	0.0%
12	雲仙市	0	0.0%	0	0.0%
13	南島原市	3	4.0%	2	5.1%
14	長与町	1	1.3%	0	0.0%
15	時津町	0	0.0%	0	0.0%
16	東彼杵町	0	0.0%	0	0.0%
17	波佐見町	0	0.0%	0	0.0%
18	川棚町	0	0.0%	0	0.0%
19	佐々町	1	1.3%	0	0.0%
20	新上五島町	3	4.0%	3	7.7%
21	小値賀町	0	0.0%	0	0.0%
	未回答	0	0.0%	0	0.0%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 1-3 あなたの年齢は（本人用設問 問 1-3）

		家族		本人	
	10-19	0	0.0%	10	25.6%
	20-29	0	0.0%	14	35.9%
	30-39	2	2.6%	12	30.8%
	40-49	17	22.4%	3	7.7%
	50-59	23	30.3%	0	0.0%
	60-69	31	40.8%	0	0.0%
	70-79	2	2.6%	0	0.0%
	未回答	1	1.3%	0	0.0%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 1-4 ご本人の性別は (本人用設問 問 1-2)

		家族		本人	
1	男	40	52.6%	23	59.0%
2	女	34	44.7%	16	41.0%
	未回答	2	2.6%	0	0.0%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 1-5 ご本人の年齢は (記入者が家族の場合)

		家族	
	10-19	20	26.3%
	20-29	24	31.6%
	30-39	24	31.6%
	40-49	5	6.6%
	未回答	3	4.0%
	計	76	100.0%

ウ 経済状況について

- ・ 家族の4割以上が60代以上だった。
- ・ 生計維持者は7割が父であり、生計維持者も無職の割合が目立つ。
- ・ 家庭の年収は、家族の記入で300万円以下が4割である。
- ・ 本人の趣味やし好に使えるお金の出処は、家族記入で7割、本人記入で5割が小遣いである。

家族の4割以上が60歳代以上であることもあり、経済的に困窮している様子が窺われる。

問1-8 主な生計維持者(家計を支える収入を得る方)に をつけてください(複数回答)

(本人用設問 問 1-6)

(本人からみた関係)

		家族		本人	
1	父	54	71.1%	29	74.4%
2	母	37	48.7%	19	48.7%
3	ご本人	8	10.5%	3	7.7%
4	兄	0	0.0%	0	0.0%
5	弟	1	1.3%	0	0.0%
6	姉	1	1.3%	2	5.1%
7	妹	0	0.0%	0	0.0%
8	祖父	2	2.6%	1	2.6%
9	祖母	7	9.2%	0	0.0%
10	その他	1	1.3%	1	2.6%

問1-9 あなたの家庭の主たる生計維持者のご職業は (本人用設問 問 1-7)

		家族		本人	
1	会社員(公務員を含む)	29	38.2%	15	38.5%
2	自営業	7	9.2%	4	10.3%
3	農林水産業	2	2.6%	1	2.6%
4	派遣社員	1	1.3%	1	2.6%
5	パート・アルバイト	3	4.0%	3	7.7%
6	その他	3	4.0%	3	7.7%
7	無職(年金受給中含む)	28	36.8%	8	20.5%
	未回答	3	4.0%	4	10.3%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問1-10 あなたのご家庭の年収（税込・合算）はどのくらいですか。（だいたいで結構です）

（本人用設問 問1-8）

		家族		本人	
1	300万円以下	33	43.4%	10	25.6%
2	300万円から400万円	16	21.1%	1	2.6%
3	400万円から500万円	8	10.5%	1	2.6%
4	500万円から600万円	3	4.0%	2	5.1%
5	600万円から800万円	1	1.3%	0	0.0%
6	800万円から1000万円	3	4.0%	0	0.0%
7	1000万円以上	1	1.3%	0	0.0%
8	わからない	1	1.3%	20	51.3%
	未回答	10	13.2%	5	12.8%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問1-15 ご本人が趣味・し好に使えるお金の出処はどうしていますか（複数回答）

（本人用設問 問1-12）

		家族		本人	
1	定期的な小遣い	27	35.5%	8	20.5%
2	不定期の小遣い	27	35.5%	14	35.9%
3	本人自身の貯金	10	13.2%	10	25.6%
4	本人自身の年金	4	5.3%	6	15.4%
5	本人自身の給与	12	15.8%	7	18.0%
6	なし	5	6.6%	1	2.6%
7	その他	4	5.3%	3	7.7%

エ 本人の在学や求職状況について

- ・ 学校に在籍していない者が5割～6割。
- ・ また求職中ではない割合は59.2%（家族記入）43.6%（本人記入）
- ・ 求職中でない理由を「病気や障害があり働くことができない」とあげた人は20.0%（家族記入）23.5%（本人記入）

ひきこもりとしてだけでなく、不登校やニート等との重複もある状態像と考えられる。

問1-17 ご本人（あなた）は学校に在籍していますか（本人用設問 問1-14）

		家族		本人	
1	在籍している	8	10.5%	3	7.7%
2	在籍していない	43	56.6%	24	61.5%
3	高校	9	11.8%	7	18.0%
4	大学	2	2.6%	0	0.0%
5	専門学校	0	0.0%	0	0.0%
6	短大	0	0.0%	0	0.0%
7	その他	6	7.9%	1	2.6%
	未回答	8	10.5%	4	10.3%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 1-19 ご本人（あなた）は求職中ですか（パート・アルバイトを含む）（本人用設問 問 1-16）

		家族		本人	
1	求職中である	16	21.1%	9	23.1%
2	求職中ではない	45	59.2%	17	43.6%
3	現在、職についている	10	13.2%	9	23.1%
	未回答	5	6.6%	4	10.3%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 1-20 「休職中ではない」を選んだ方にお尋ねします。ご本人（あなた）が休職中ではない理由として最も大きいものを選んでください（本人用設問 問 1-17）

		家族		本人	
1	病気や障害があり働くことができない	9	20.0%	4	23.5%
2	希望の仕事がない	3	6.7%	1	5.9%
3	生活費はあるから	2	4.4%	0	0.0%
4	資格や技術がない	0	0.0%	1	5.9%
5	学校に在籍または受験や資格取得を目指しているため	11	24.4%	2	11.8%
6	理由は特にない	11	24.4%	5	29.4%
7	その他	8	17.8%	2	11.8%
	未回答	1	2.2%	2	11.8%
	計	45	100.0%	17	100.0%

オ 本人の困っていること、意向について

- ・ 収入や生活費のこと（35.8%）、気分や体調のこと（33.3%）などを気になることとしてあげている。
- ・ 本人記入では「現状よりも積極的な社会参加を目指したい」が多い（30.8%）一方で、家族記入では「何かをしたいけど何をすればいいかわからないようだ」（39.5%）という回答が多かった。
- ・ 当面満足のいくひと月あたりの収入（手取り）は、「わからない」とした回答が多いなか、金額を記入した群では、本人記入が金額を高め、家族記入は金額を低めに記入している傾向がある。

問 1-21 ご本人（あなた）が現在困っていることや悩んでいるであろうことがありますか（複数回答）（本人用設問 問 1-18）

		家族		本人	
1	収入や生活費のこと	21	27.6%	14	35.8%
2	仕事や職場のこと	6	7.9%	10	25.6%
3	就職のこと	19	25.0%	10	25.6%
4	性格のこと	13	17.1%	10	25.6%
5	気分や体調のこと	26	34.2%	13	33.3%
6	容姿のこと	9	11.8%	5	12.8%
7	ご家族との関係のこと	13	17.1%	6	15.4%
8	親類との関係のこと	1	1.3%	2	5.1%
9	学校での勉強や成績のこと	9	11.8%	7	18.0%
10	異性との交際に関すること	1	1.3%	4	10.3%
11	友人や仲間との人間関係	16	21.0%	7	18.0%
12	特に困っていることや悩み事はない	5	6.6%	3	7.7%
13	その他	7	9.2%	3	7.7%
14	わからない	13	17.1%	2	5.1%

問1-22 ご本人（あなた）の現状について、ご本人（あなた）が抱いていると思われる意向は
（本人用設問 問 1-19）

		家族		本人	
1	何もしたくないようだ	8	10.5%	2	5.1%
2	何かしたいけど何をすればいいかわからないようだ	30	39.5%	11	28.2%
3	現状よりも積極的な社会参加をめざしたいようだ	8	10.5%	12	30.8%
4	現状が一番いいようだ	9	11.8%	3	7.7%
5	その他	3	4.0%	2	5.1%
6	わからない	12	15.8%	5	12.8%
	未回答	6	7.9%	4	10.3%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問1-23 ご本人（あなた）が自身で当面満足のいくと思われるひと月あたりの収入（手取り）
また、その理由は （本人用設問 問 1-21）

		家族		本人	
1	正規雇用	11	14.5%	9	23.1%
2	やりがい	17	22.4%	15	38.5%
3	将来性	6	7.9%	8	20.5%
4	生活のために十分な賃金	12	15.8%	20	51.3%
5	職場の雰囲気	21	27.6%	16	41.0%
6	福利厚生	1	1.3%	6	15.4%
7	自宅からの距離	11	14.5%	7	18.0%
8	勤務時間・日数	12	15.8%	10	25.6%
9	有給休暇がきちんと取れる	3	4.0%	4	10.3%
10	就職できればどこでもよい	1	1.3%	2	5.1%
11	その他	3	4.0%	0	0.0%
12	わからない	27	35.5%	6	15.4%

カ 家族がいま困っていること、現状への思い

- ・ 家族が生活上の問題で困っていることとして、経済的な問題を挙げた回答が42.1%だった。
- ・ 家族が普段抱いている意向・気持ちについては「じっくりと本人を見守る気持ちがある（51.3%）」「将来の設計が立たないので不安」（39.5%）の両価的な気持ちがあるという回答が得られた。
- ・ 家族が本人から暴力や暴言を受けるとした割合は13.2%だった。
- ・ 家族が他の家族に望むこととしては、家族自身の相談相手になって欲しい（23.7%）、本人の相談相手になって欲しい（27.6%）という回答だった。

不安な気持ちについては、個別相談や家族教室、家族会や家族のつどいをとおして、ささえていく必要がある。

問 1-25 あなた（家族）が生活上の問題で困っていること（複数回答）

		家族	
1	経済的な問題	32	42.1%
2	家族の介護	6	7.9%
3	夫婦関係の悩み	6	7.9%
4	家族関係	18	23.7%
5	ご本人のことで親類との関係が悪い	1	1.3%
6	兄弟姉妹の養育に関すること	6	7.9%
7	その他	16	21.1%
8	とくにない	9	11.8%

問 1-26 あなた（家族）がふだん抱いている意向・気持ちはどのようなものですか（複数回答）

		家族	
1	世間の目が気になる	9	11.8%
2	人付き合いが減っている	13	17.1%
3	途方に暮れてしまう	17	22.4%
4	色々な援助の試行錯誤がうまくいかないと感じる	14	18.4%
5	将来の設計が立たないので不安	30	39.5%
6	楽しみにしていた趣味の活動をする気がしない	8	10.5%
7	よく眠れない	9	11.8%
8	食欲がない	2	2.6%
9	じっくりと本人を見守る気持ちがある	39	51.3%
10	よい方向に進む希望がある	16	21.1%
11	その他	3	4.0%

問 1-27 あなたはご本人から暴言や暴力を受けることがありますか

		家族	
1	受けない	63	82.9%
2	暴言を受ける	8	10.5%
3	暴力を受ける	0	0.0%
4	暴言も暴力も受ける	2	2.6%
	未回答	3	4.0%
	計	76	100.0%

問 1-30 あなたがご本人以外の家族の方に対して望むこと（複数回答）

		家族	
1	相談や診察に同行してほしい	6	7.9%
2	相談の相手になってほしい	18	23.7%
3	本人の相談の相手になってほしい	21	27.6%
4	本人と話してほしい	16	21.1%
5	家事の手伝いをしてほしい	5	6.6%
6	暴力をやめさせてほしい	1	1.3%
7	暴言をやめさせてほしい	2	2.6%
8	その他	13	17.1%

キ 不登校の経験について

- ・ 不登校の経験は家族記入の場合で73.7%、本人記入の場合で64.1%あった。
- ・ 不登校の時期としては、中学校の時期がもっとも多かった。
- ・ 不登校のきっかけは、生徒・学生どうしの人間関係、いじめの割合が高かった。

今回調査で、ひきこもりの過去には不登校の経験があるものが多い。

問1-33 ご本人（あなた）の不登校（年間合計30日以上学校を欠席した）の経験はありますか（本人用設問 問 1-24）

		家族		本人	
1	ある	56	73.7%	25	64.1%
2	ない	16	21.1%	12	30.8%
	未回答	4	5.3%	2	5.1%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 1-34 「ある」と選ばれた方にお尋ねします。いつ頃ありましたか（複数回答）（本人用設問 1-25）

		家族		本人	
1	小学校	16	28.6%	7	28.0%
2	中学校	37	66.1%	20	80.0%
3	高校	24	42.9%	13	52.0%
4	大学・短大・専門学校	6	10.7%	4	16.0%
5	大学院	0	0.0%	0	0.0%

問 1-36 「ある」と選ばれた方にお尋ねします。不登校のきっかけはなんですか（複数回答）
（本人用設問 問 1-27）

		家族		本人	
1	生徒・学生どうしの人間関係	23	41.1%	9	36.0%
2	教職員との関係	17	30.4%	3	12.0%
3	家庭問題	4	7.1%	0	0.0%
4	経済的な問題	0	0.0%	0	0.0%
5	受験・進学	2	3.6%	0	0.0%
6	いじめ	18	32.1%	5	20.0%
7	病気やけが	1	1.8%	2	8.0%
8	その他	4	7.1%	5	20.0%
9	わからない	19	33.9%	8	32.0%

ク 働いたことの経験について

- ・ 以前働いたことがあるとした回答が、40.8%（家族記入）38.5%（本人記入）あった。
- ・ 働くことをやめた（中断している）きっかけとしては、対人関係をあげた割合が最も多かった（本人記入で66.7%）。また、本人記入においては病気やけがを理由にあげた回答が次に多かった（46.7%）。
- ・

問1-37 ご本人（あなた）は働いたことがありますか（アルバイト、臨時雇用を含む）
（本人用設問 問 1-28）

		家族		本人	
1	以前働いたことがある	31	40.8%	15	38.5%
2	現在働いている	15	19.7%	12	30.8%
3	ない	24	31.6%	9	23.1%
	未回答	6	7.9%	3	7.7%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 1-40 「以前働いたことがある」と選ばれた方にお尋ねします。ご本人（あなた）が働く事をやめた（中断している）きっかけで、思い当たることはありますか（複数回答）

		家族		本人	
		人数	割合	人数	割合
1	対人関係	16	51.6%	10	66.7%
2	家庭問題	1	3.2%	1	6.7%
3	受験・進学	3	9.7%	2	13.3%
4	いじめ	3	9.7%	3	20.0%
5	パワーハラスメント	1	3.2%	2	13.3%
6	セクシャルハラスメント	0	0.0%	1	6.7%
7	雇用形態（非正規雇用等）	6	19.4%	5	33.3%
8	病気やけが	4	12.9%	7	46.7%
9	その他	8	25.8%	4	26.7%
10	わからない	8	25.8%	0	0.0%

ケ こころの健康状態について

- ・ こころの健康状態について、不調を感じる事がほとんどないとしたのは、13.2%（家族記入）10.3%（本人記入）であり、約9割には何らかの不調がある。
- ・ 「ひどく気分が沈む（抑うつ的）ことがある」（家族記入で46.9%、本人記入で62.9%）「イライラが強いことがある」（家族記入で43.8%、本人記入で54.3%）との回答が多かった。本人記入では「人の視線が気になる・怖いことがある」（51.4%）と回答した割合も高かった。

就労等の社会参加を目指す際に、当事者同士の交流の場をとおした支援や就労支援等を受ける必要があると考えられる。

問1-41 あなたが自身（ご本人）のこころの健康状態に不調を感じることがありますか
（本人用設問 問 1-32）

		家族		本人	
		人数	割合	人数	割合
1	いつもある	16	21.1%	4	10.3%
2	よくある	13	17.1%	13	33.3%
3	たまにある	35	46.1%	18	46.2%
4	ほとんどない	10	13.2%	4	10.3%
	未回答	2	2.6%	0	0.0%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問1-42 問 1-41 で 1～3 を選ばれた方について、どのような不調を感じますか（複数回答）
（本人用設問 1-33）

		家族		本人	
1	イライラが強いことがある	28	43.8%	19	54.3%
2	ひどく気分が沈む(抑うつ的)ことがある	30	46.9%	22	62.9%
3	同じことをくりかえし続けたり、 長い時間続けることがある	11	17.2%	7	20.0%
4	人の視線が気になる・怖いときがある	23	35.9%	18	51.4%
5	ギャンブルがやめられない	2	3.1%	1	2.9%
6	過食や拒食がある	6	9.4%	4	11.4%
7	自分を傷つけたりすることがある	3	4.7%	3	8.6%
8	睡眠薬を大量に飲んでしまうことがある	1	1.6%	1	2.9%
9	アルコールを飲みすぎるがある	6	9.4%	0	0.0%
10	家族に暴言を言うてしまう			7	20.0%
11	家族に暴力をふるってしまう			1	2.9%
12	その他	11	17.2%	9	25.7%

コ 精神科等医療機関の受診状況について

- ・ 54.0%（家族記入） 53.9%（本人記入）が、精神科等の医療機関を受診したことがあると回答した。
- ・ それに対し今現在も受診したことがある割合は27.6%（家族記入） 38.5%（本人記入）だった。
- ・ 精神科等医療機関（精神科・神経科等）を利用するうえで重視することは「カウンセリングをしてくれること」が最も多かった（家族記入で60.5%、本人記入で43.6%）。

精神科等医療機関に一度は足を運んだことのある人の割合は高率である。

本人や家族が精神科等医療機関を利用する上で重視することは「カウンセリング」をはじめとした親身な関係を望む傾向がある。

問 1-43 ご本人（あなた）が過去に精神科・神経科・心療内科などの医療機関（クリニックや病院）に受診したことがありますか（民間カウンセリング機関を除く）（本人用設問 問 1-34）

		家族		本人	
1	ある	41	54.0%	21	53.9%
2	ない	32	42.1%	15	38.5%
3	わからない	1	1.3%	1	2.6%
	未回答	2	2.6%	2	5.1%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 1-44 ご本人（あなた）がいま現在、精神科・神経科・心療内科などの医療機関（クリニックや病院）にかかっていますか（民間カウンセリング機関を除く）（本人用設問 問 1-35）

		家族		本人	
1	いる	21	27.6%	15	38.5%
2	いない	53	69.7%	23	59.0%
3	わからない	1	1.3%	0	0.0%
	未回答	1	1.3%	1	2.6%
	計	76	100.0%	39	100.0%

問 2-9 ご本人（あなた）が精神科等医療機関（精神科・神経科・心療内科などクリニックや病院）を利用する上であなたが重視することを教えてください（複数回答）

		家族		本人	
1	訪問診療が可能	8	10.5%	3	7.7%
2	診療費が適正	15	19.7%	14	35.9%
3	継続的かつ親身な関係	32	42.1%	13	33.3%
4	一回限りの関係	0	0.0%	0	0.0%
5	薬が少ない治療法	21	27.6%	6	15.4%
6	症状や治療の説明をしてくれる	30	39.5%	7	18.0%
7	解決策を提示してくれる	22	28.9%	12	30.8%
8	カウンセリングをしてくれる	46	60.5%	17	43.6%
9	セカンドオピニオンに抵抗がない	10	13.2%	4	10.3%
10	その他	4	5.3%	5	12.8%

サ 障害者手帳の取得状況について

- ・ 障害者手帳を持っていないとの回答は、86.8%（家族記入）87.2%（本人記入）だった。

問 1-45 ご本人（あなた）は障害者手帳をお持ちですか（本人用設問 問 1-36）

		家族		本人	
1	もっていない	66	86.8%	34	87.2%
2	精神障害者保健福祉手帳をもっている	4	5.3%	2	5.1%
3	療育手帳をもっている	0	0.0%	1	2.6%
4	身体障害者手帳をもっている	0	0.0%	0	0.0%
	未回答	6	7.9%	2	5.1%
	計	76	100.0%	39	100.0%

状態として、障害枠での就労支援の対象にならない人が多いと考えられる。